

風は未来を 5月号

「前向きに実践できる、みんなが元気な長野中」

勉強時間をつくるということは、他の時間をなくすということです

中間試験の勉強は進んでいますか？

私たちの身の回りには、勉強を妨げる誘惑がたくさんあります。テレビ、ゲーム、パソコン、ケータイ、マンガなど、家に帰ると様々な誘惑が待っています。家で勉強するという事は、これらの誘惑と戦うということです。誘惑は私たちの生活の中に深く入り込んでいるので、全てを取り除くことはまず不可能でしょう。恵まれすぎる環境の現代社会は、実は勉強のしづらい世の中なのです。



誘惑とうまくつきあえず、勉強する時間を確保できなかったという経験はありませんか。勉強する時間をつくり出すということは、他の時間をなくすということです。このテレビは見ない。このゲームはしない。自分から友達にメールはしないということです。

ある先輩が言っていました。その先輩は誘惑に負けそうになる物に、「ふせん」を貼ったそうです。例えば「試験中」と書いた「ふせん」をゲーム機に張りつけました。ついつい「ゲームやっか」となったとき、そのふせんが目に入ったら、あとはふせんとの闘いです。



テレビは録画できます。パソコンやゲーム機は、

試験前は目と手が届かない所に置いておくという方法もあります。試験まであと2日、誘惑に負けず勉強時間をたくさんつくってください。

<追記>

「暗記系」の勉強のコツを教えます。それは、五感をフルに活用することです。見ているだけではなく、ひたすら声に出して反復したり、ノートに何度も書いてみるのです。何度も反復して学習する事で、試験本番でも、覚えている可能性が高くなります。

行田探訪 その1 さきたま火祭り

私（校長）の故郷は秩父です。故郷を離れてもう30年余りたちますが、故郷はいつまでたっても夢に出てくる場所であり、心が休まる大切な場所です。皆さんの故郷は行田ですね。自分もそうでしたが、そこに暮らしているときは自分の故郷を意識しませんでした。私も行田に移り住んで行田の素晴らしさを実感しました。もしかすると、行田で生まれ育った人よりも「行田のよさ」を感じているかもしれません。これから折に触れて、知っていそうでよく知らなかった「行田のよさ」を紹介していきたいと思います。

第1号は、毎年5月4日に開かれる「さきたま火祭り」についてです。

さきたま火祭りは、埼玉地区の人たちが中心となって運営している”火”をシンボルにしたお祭りです。このお祭りは、昭和55年に、後に国宝に指定される金錯銘鉄剣（きんさくめいてっけん）がさきたま資料館に保存されることを記念して始まりました。

古事記によれば、天照大御神（あまてらすおおみかみ）の孫「ニニギノミコト」が、「コノハナサクヤヒメ」と結婚してすぐに戦に行くことになりました。ニニギノミコトが戦から帰ってくると、玉のような男の子が2人生まれていました。ニニギノミコトは自分がいない間に生まれた子どもを疑いました。コノハナサクヤヒメは、疑いを晴らすため「神の子であるならば、たとえ火の中でも無事に生まれるでしょう」と自らワラでできた産屋（うぶや）に火を放ち、その中で海幸彦（ウミサチヒコ）と山幸彦（ヤマサチヒコ）を出産したということです。



お祭りの見どころは午後6時から。コノハナサクヤヒメを祭る浅間（せんげん）神社で採火された火を埼玉小学校6年生児童が会場まで運ぶ「採火行列」。主役の2人を運ぶ「輦台（れんだい）行列」、高さ7メートルの古代住居を炎上させる「産屋（うぶや）炎上」。そして、稲荷山（いなりやま）古墳や丸墓山古墳からたいまつを持ち古代人に扮した地元の人たちが降りてくる「御神火降り（ごじんかくだり）」などで、古代ロマンへと導く幻想的なお祭りです。

【朝のあいさつ運動】

「おはようございまーす！」長野中学校では、火曜日と木曜日に校門で元気な声が飛び交います。この日は生徒会が中心となって朝のあいさつ運動を行っています。

5月7日は、行田市非行防止ボランティアの方々もあいさつ運動に参加していただきました。長野中の生徒は、服装・態度もしっかりしていて、皆元気に登校しているというおほめの言葉をいただきました。

